

「港の風景」写真コンテスト2023

本コンテストは、写真を通じて津々浦々の港や海辺の四季折々の姿を表現していただき、ともすれば港と疎遠になりがちな方々に対してその魅力を再認識していただくと共に、ウォーターフロントへの関心を高めていただくことを目的としています。

今年で32回目の本コンテストには、584点の応募がありました。いただいた作品に対して令和5年10月6日に厳正なる審査を行った結果、次のとおり入選作品を決定させていただきました。

総評

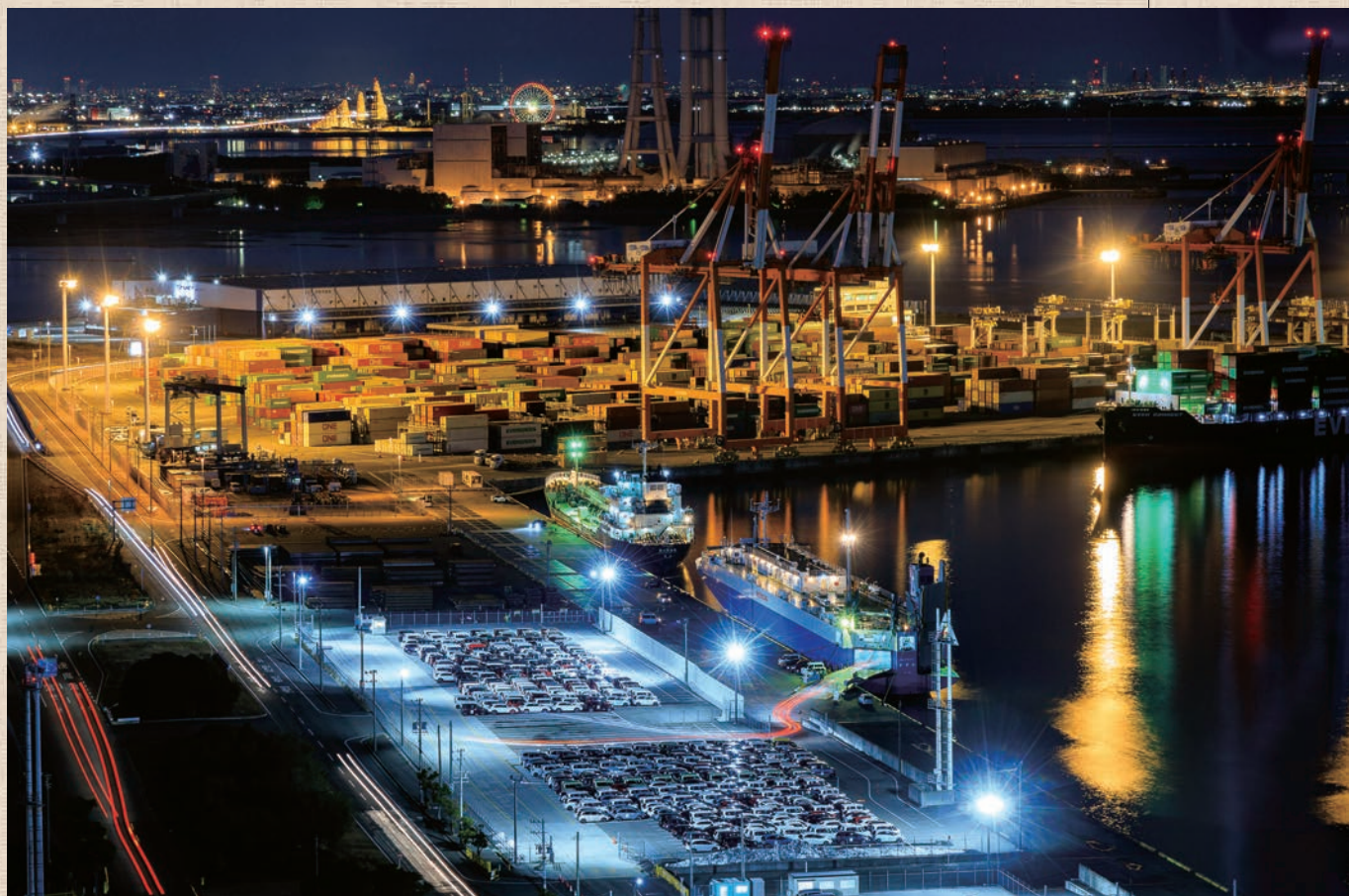
テーマフリーの写真コンテストは別として、本コンテストのようにウォーターフロント関連とテーマが限られていると、回を重ねるうちにそれなりの傾向が現れてきます。そのプラス面は、毎回の受賞作品を見ることによって、主催者である日本港湾協会が何を評価しているのか理解が深まることです。今回はより各賞に相応しい応募があり、素晴らしい作品が受賞しました。

逆にマイナス面は、具体的に「どこ」の「何」を写せは選ばれやすいと思ってしまうことです。たとえば、横浜港は被写体豊富ですし、花火大会は目を惹く作品になりやすいのは確かですが、二番煎じではなかなか……。

写真は現実の姿を写すものですが、究極の一期一会でもあります。季節、時間、天候により、絶えずとってよいほど姿を変え続ける被写体を「どう見て」「どのように切り取るか」その視点が評価の対象になります。話が抽象的になりましたが、港湾や海辺の景観の魅力を、新鮮なフレーミングでとらえた作品のご応募を期待しています。



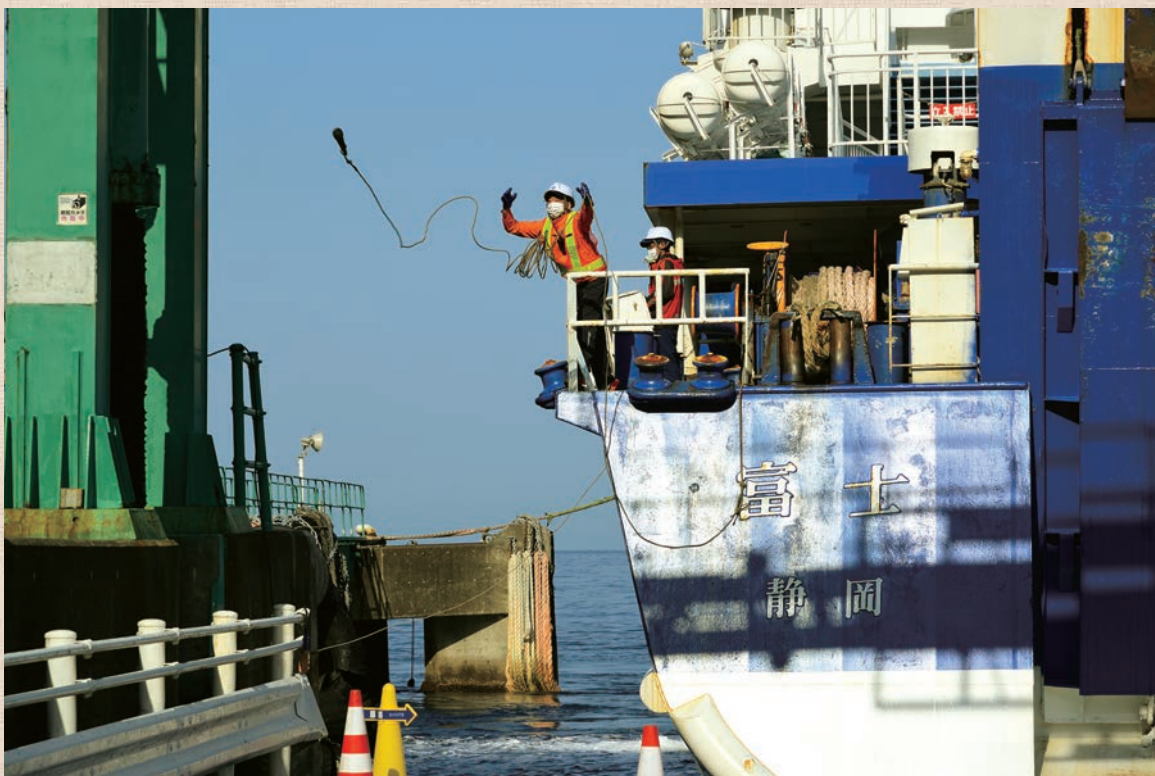
最優秀賞
国土交通大臣賞
佐藤孝 四日市港
車両積み込み



港の一面に建つ高さ100メートルのポートビル最上階「うみてらす14」は、土日祝日の閉館が午後9時。中部地方有数の国際貿易港である四日市港の夜景が一望できます。埠頭の施設だけではなく、遠くナガシマスパーランドのジェットコースターや大観覧車までシャープに描写した望遠撮影が見事。さらに主題の「車両積み込み」の情景描写が秀逸。S字を描いて輸送船内に移動する車のテールランプの赤が、夜も働き続ける港の姿を活写しています。



西山昌敏 土肥港
狙いをつけて
国土交通省港湾局長賞



風景としての港や、被写体にしやすい船舶の姿ではなく、日常的な作業に着目、主題としたところがポイント。静岡県の清水港と土肥港を結ぶ駿河湾フェリーの「富士」が土肥港に到着して着岸作業をしているところでしょうか。ヘルメット・マスク・作業ベストの船員や、空中に静止したロープと錘の静止した「形」。肉眼では感じ取りにくい、高速シャッターで写し止めた映像が新鮮です。



津森富貴子 彦島海士郷（下関漁港）
海峽花火大会
（公社）日本港湾協会会長賞



3年ぶりに開催された関門海峡花火大会。下関と門司の両岸から1万5千発の花火が打ち上げられたそうです。撮影地は関門海峡側ではなく、下関の街と海（小瀬戸）を挟んだ彦島の漁港。この選択が作品に個性を添えました。画面で一番目立つのは花火ではなく下関の街の灯り。そして手前の暗がりには海士郷漁港。身近なところで花火を眺める四人の姿が主題ともいえる視点が画期的です。





港湾海岸防災協議会会長賞
出口慎也 黄金岬(三国港)
波濤を越えて



2021年の受賞に続き、同じ被写体で同じ賞に再選されました。今回はさらに風波の迫力が増しています。前作「咆哮」では青味がかっていた色調を修正。その結果、モノクロームのような画面に灯台のくすんだ赤色が印象的です。またより一部分を切り取ったことで、消波ブロックに砕ける波の凄味がクローズアップされました。さらに、空を埋めた数多くの海鳥が画面を引き締めています。



部門賞「みなとの活動」
大谷繁一 敦賀港
荷役は24時間



昔から日本海側の貿易拠点港として栄えてきた敦賀港ですが、夜も作業を続ける港を照らす「人工光」が主題となっています。太陽光に比べれば微弱な点光源ですが、色温度による色調の違いが、港湾設備や貨物船を印象的にとらえています。また、より印象的なのは画面の下半分を占める海面いっぱいに映る光。デジタルカメラの描写力が、見た目以上に光の揺らぎを表現してくれました。



武内勇雄 須ノ川海岸
 部門賞「防災」
 堤防工事完成



「日本の渚百選」に選ばれた須ノ川海岸は、玉の浜石が特長。そこに新しくできた堤防を主題に、真正面から取り組んだということ自体が素晴らしい。わずかに当たる夕日をアクセントに、宇和海に面したコンクリートの壁を量感豊かに描いた力量には感心します。色調はあくまでシンプル。放射状の遠近感を受け止める、画面左の階段の折れ線と黒い柵が臨場感を加えています。



おおきゆうこう 奥武漁港
 部門賞「賑わい」
 奥武島ハーリー



沖縄県南城市の奥武島で最も大きな年中行事が奥武島海神祭。本ハーリーという舟の競漕が有名ですが、これは飛び込みハーリー（流れ船）。船に乗り込むために、橋から5メートルほど下の海に飛び込む瞬間を間近で撮影した画面は、臨場感・迫力最高。このポジションがよく得られたものです。飛び降りる人の動作もそれぞれタイミングが良く、鼻をつまみながらの姿はご愛敬です。





国の重要文化的景観に選ばれている遊子水荷浦（ゆすみずがうら）の段畑。ジャガイモなどを栽培している畑の上から、遊子の屋並みと港・宇和海を俯瞰しています。魚眼レンズの広い視野が地形の特長をよく捉えている半面、楕円形の歪みが写実感を削いでいますが、狭い町を取り囲むような段畑の印象は逆に再現されていると思います。撮影場所とレンズの選択が作品を決めました。



部門賞「自然・歴史」
芝崎静雄 水ヶ浦港
段畑の港



伊豆・小笠原諸島航路の発着する竹芝客船ターミナルを、近くのニューピア竹芝サウスタワーから俯瞰した景観でしょうか。対岸は豊海の高層ビル群、左にライトアップされた築地大橋を始めとする橋梁群、スカイツリーと、賑やかな景観をうまく収めています。手前に停泊する船を写し込むと画面中央が暗く沈みますが、右下からくる二隻の航跡がうまく構図を引き締めてくれました。



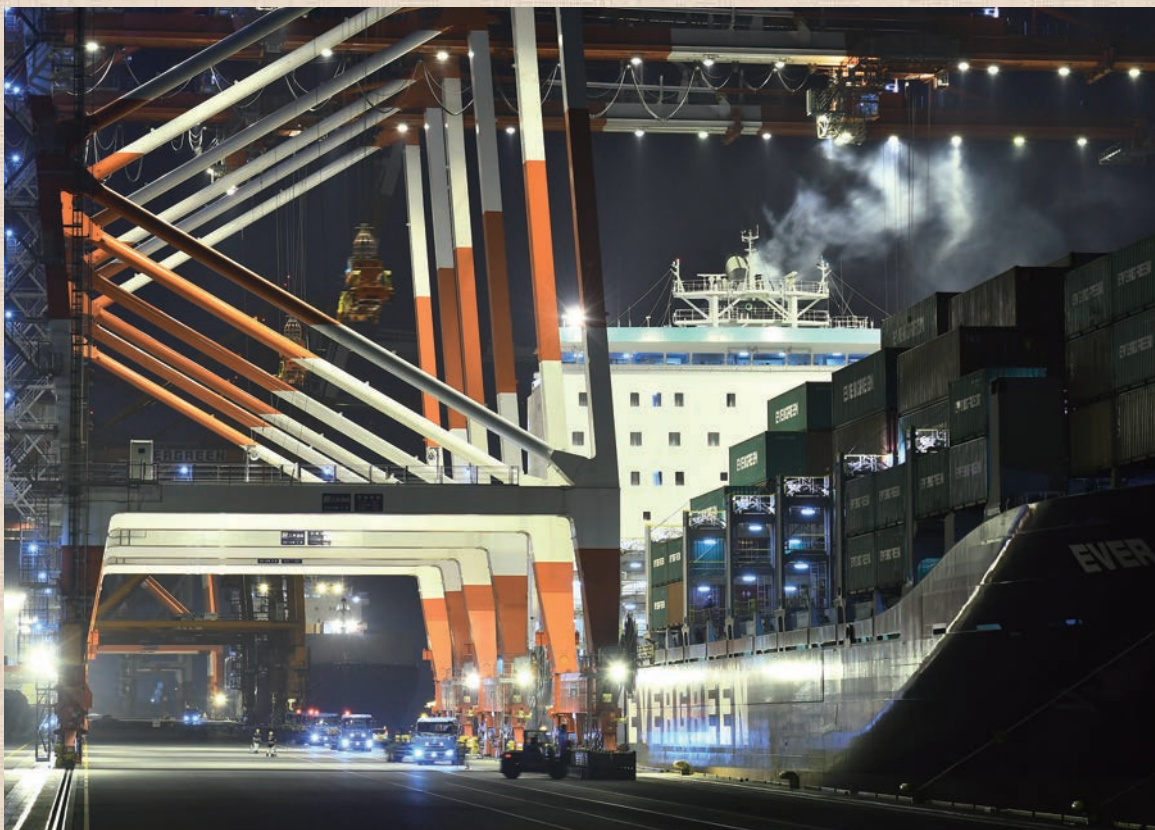
優秀賞
能登正俊 東京港
出航を待つ



優秀賞

物流の舞台裏

根本竜佳 青海北ふ頭公園（東京港）



臨海副都心と港が近いせいで、大型のコンテナ船が至近で見られる珍しい場所だそう。それを生かすために夜を選んだことが成功のポイント。埠頭の照明によるくっきりとしたコントラストが、船やコンテナ、クレーンの金属的な質感を強調。望遠レンズによる距離感の圧縮を生かした密集感、明暗の対比を生かした骨太な画面構成により、日本の物流を支える港の姿が浮かび上がりました。



優秀賞

「止めるぞ高潮 守るぞ都民」

小森一美 東雲運河（東京港）



タイトルの文言は水門の上に書かれた標語です。その名のとおり、潮の出入りを調節する大切ですが地味な施設。日中の姿はあまり美的ではないうえに、撮影ポジションも限られるので、その機能を写真で表現しにくい対象です。写真は光、夜の人工照明と青黒く沈んだ空と水面を組み合わせることで、難条件を克服。休みなく都民の生活を守る、寡黙な番人の姿を表現できました。





長い歴史を持つ堺港と大津港が統合された堺泉北港。堺旧港南波止場にある、明治10年に建てられた洋式木造灯台がある夕日の名所が撮影地。モニュメントとして保存された灯台のディテールがつぶれず、なおかつ夕景を感じさせる露出が絶妙。夕日が白く飛んでいるものの、輪郭が感じられるぎりぎりの描写。雨上がりのようで、濡れた石畳の反射が港の夕景に魅力を添えています。



優秀賞
竹下邦茂 堺泉北港
雷雨と夕日の港



四国への玄関口として発展した宇野港。瀬戸大橋の開通後は3万トン級の大型客船が利用できる岸壁を増設。その宇野港第1突堤大型客船バースに、豪華客船シーニック・エクリプスが着岸。タイトルからすると、その出港風景のようです。大きな水たまりに映った人々の姿を画面構成にしっかり利用したことで、やや寂しげな見送り風景を好被写体として生かしフレーミングできました。



優秀賞
北川隆司 宇野港
いい日旅立ち



入選

毎回のことですが、受賞作と入賞作の差は僅かといえます。同じ被写体、同じような狙い方の作品のどこで優劣がつくのでしょうか。あくまでも、本コンテストでのということですが、一言でいえば「詰めが少し甘い」です。

- ・写真の完成度は高くとも、テーマに即していない
- ・主体を一つに絞り込んでいない
- ・主体の印象を弱める余分なものが写り込んでいる

などが理由で「競り負ける」結果になります。一番わかりやすいのはフレーミングです。画面構成の工夫をもう少し、ということですが、撮影ポジションの選択とズーム機能の活用を意識してみてください。

今回は、これまでにない初めての被写体、レンズワーク、カメラアングルの作品がかなりありました。これで諦めずに、もう少しブラッシュアップして再挑戦をお待ちしています。

入選 夢洲の華
竹下邦茂



入選 源平放水合戦
斎藤雄幸睦



入選 ブルーインパルス見物
芝崎静雄



入選 夕暮れの砲台跡
田中泰一



入選 インバウンド復活の灯
佐藤孝



入選 紅白放水合戦
花一彦





白石信夫
入選 港のスフィンクス



飯田忠雄
入選 富士山の見える港



佐知浩幸
入選 お披露目の日



宇田川憲一
入選 安全第一



川崎信義
入選 夜のオランダ商館



後谷弘
入選 積載作業



白木勇治
入選 124年間、紺碧に輝く経ヶ岬灯台



北村幸雄
入選 定期船運行





松田吉夫
一夜干
入選



小城原淳
客船リフレクション
入選



山内佳子
いざない
入選



佐藤亜有子
青函を見守る八甲田丸
入選



堀内勇
漁村と農村の共存
入選



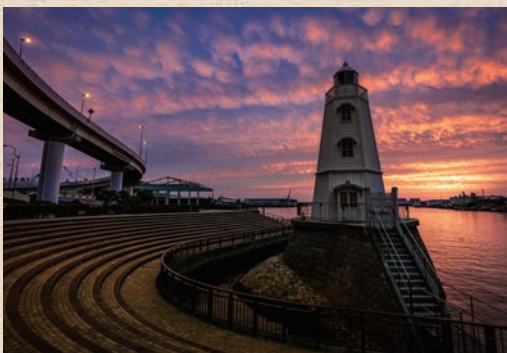
又城政俊
定置網漁を終えて
入選



遠藤直弥
夜港
入選



奥谷裕
羊雲たなびく夕景
入選

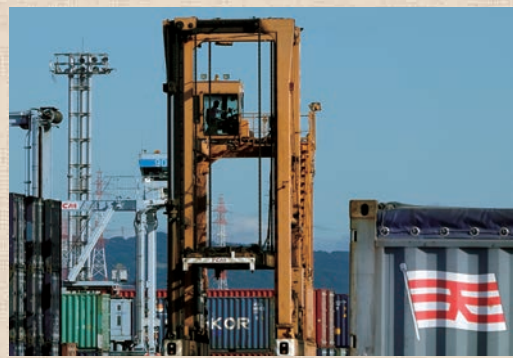




藤原利忠
入選 港マルシェ



白井綾子
入選 コンテナヤードの主



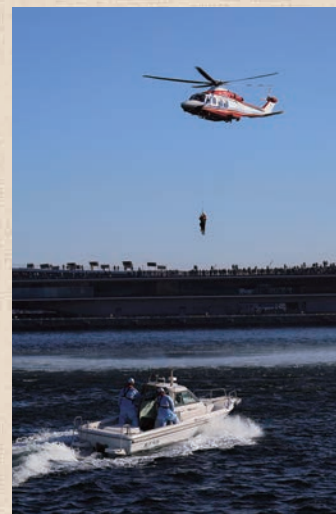
新居輝雄
入選 長良川から木曾川へ



仲田弘明
入選 作業船の休息



松山進
入選 年の初めの訓練



福村修
入選 土木遺産佐渡大間港・夕日の納涼祭



藤原美義
入選 雨あがり



中村光雄
入選 救助訓練

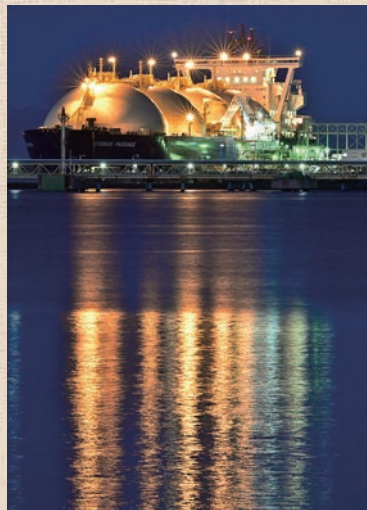




入選
常夜灯のある港
乗松賢二



入選
日本のエネルギーを守る
瀬沼功一



国土交通大臣賞

佐藤孝「車両積み込み」(四日市港)

国土交通省港湾局長賞

西山昌敏「狙いをつけて」(土肥港)

日本港湾協会会長賞

津森富貴子「海峡花火大会」(彦島海士郷(下関漁港))

港湾海岸防災協議会会長賞

出口慎也「波濤を越えて」(黄金岬(三国港))

部門賞「みなとの活動」

大谷繁一「荷役は24時間」(敦賀港)

部門賞「防災」

武内勇雄「堤防工事完成」(須ノ川海岸)

部門賞「賑わい」

おおきゆうこう「奥武島ハーリー」(奥武漁港)

部門賞「自然・歴史」

芝崎静雄「段畑の港」(水ヶ浦港)

優秀賞

能登正俊「出航を待つ」(東京港)

根本竜佳「物流の舞台裏」(青海北ふ頭公園(東京港))

小森一美「止めるぞ高潮 守るぞ都民」(東雲運河(東京港))

竹下邦茂「雷雨と夕日の港」(堺泉北港)

北川隆司「いい日旅立ち」(宇野港)

主催

(公社)日本港湾協会
港湾海岸防災協議会

後援

国土交通省

協賛

(一社)日本旅客船協会

(一社)ウォーターフロント協会

(一社)日本外航客船協会

(一社)日本マリーナ・ビーチ協会

(一財)みなと総合研究財団

(一財)港湾空港総合技術センター

富士フィルムイメージングシステムズ(株)

入選

竹下邦茂「夢洲の華」(大阪港)

芝崎静雄「ブルーインパルス見物」(今治港)

佐藤孝「インバウンド復活の灯」(長崎港)

斎藤雄幸「源平放水合戦」(日生港)

田中泰一「夕暮れの砲台跡」(高砂向島砲台跡(東播磨港))

花一彦「紅白放水合戦」(日生港)

川崎信義「夜のオランダ商館」(平戸港)

後谷弘「積載作業」(富山新港)

白木勇治「124年間、紺碧に輝く経ヶ岬灯台」(経ヶ岬)

北村幸雄「定期船運行」(本渡瀬戸航路)

白石信夫「港のスフィンクス」(宇和島湾)

飯田忠雄「富士山に見える港」(日の出埠頭(清水港))

佐知浩幸「お披露目の日」(田子の浦ビーチ(田子の浦港))

宇田川憲一「安全第一」(青海ふ頭(東京港))

堀内勇「漁村と農村の共存」(日引漁港)

又城政俊「定置網漁を終えて」(久慈港)

遠藤直弥「夜港」(青海北ふ頭公園(東京港))

奥谷裕「羊雲たなびく夕景」(境旧港)

松田吉夫「一夜干」(網代漁港)

小城原淳「客船リフレクション」(横浜港)

山内佳子「いざない」(苦小牧西港)

佐藤亜有子「青函を見守る八甲田丸」(青森港)

新居輝雄「長良川から木曾川へ」(船頭平間門)

仲田弘明「作業船の休息」(木更津港)

福村修「土木遺産佐渡大間港・夕日の納涼祭」(大間港)

中村光雄「救助訓練」(大阪港)

藤原利忠「港マルシェ」(今治港)

白井綾子「コンテナヤードの主」(水島港)

松山進「年の初めの訓練」(横浜港)

藤原美義「あめあがり」(神戸港)

乗松賢二「常夜灯のある港」(鞆の浦)

瀬沼功一「日本のエネルギーを守る」(新潟東港)

審査員(順不同・敬称略)

齋藤 潮 <東京工業大学名誉教授>

廻 洋子 <敬愛大学特任教授>

富岡畦草 <写真家>

松野正雄 <写真家>

逸見 仁 <写真家>

中川研造 <国土交通省港湾局海洋・環境課長>

上原修二 <国土交通省港湾局海岸・防災課長>

大脇 崇 <(公社)日本港湾協会理事長>